

# たいむとらいある

1年3組 三井敏一

## 序章

T.T. その日は男たちのトキメキであった。これは血と汗と涙にまじりかた男たちの記録である。彼等は我々に何をせよとしているのか。



## 第一章

### 出発

出発の時が来た。号砲が鳴った。サイが投げられた。封は切られた。幕は上がった。決戦の時が来た。彼が鳥。た。オンゲ。て。し。た。せ。ふ。は。何。の。ら。ー。も。う。え。え。ん。じ。や。早。う。出。発。せ。よ。ー。Switch ON。ー。何。ん。と。に。せ。う。え。え。ち。う。う。に。わ。た。し。た。ち。と。同。じ。や。う。に。せ。う。と。出。発。し。た。や。り。旗。は。緊張。し。て。い。る。が。う。で。も。あ。り。平。然。と。懸。う。こ。と。に。負。を。受。つ。て。い。て。ま。た。何。と。か。選。別。く。さ。せ。う。で。も。あ。た。幸。い。出。発。す。る。こ。と。に。か。ー。ア。に。な。り。ア。チ。リ。や。こ。を。曲。が。る。と。い。く。ら。か。身。分。の。楽。に。な。た。や。こ。に。は。只。走。し。て。い。る。道。が。あ。た。彼。は。後。に。何。が。起。こ。る。か。な。と。は。前前 ○○さんの○○○○ 位。も。考。え。付。か。つ。た。彼。の。目。の。前。に。白。き。る。で。目。玉。を。代。表。す。る。か。の。よ。う。に。つ。ま。り。白。丸。の。よ。う。に。富。士。山。が。の。び。え。立。つ。て。い。た。彼。も。深。ま。り。つ。つ。あ。る。空。を。瞬。光。した。日。で。あ。た。

第二章 誰線

スタートしてからの行程、たまたまか。昔と今の点線が形  
 がある。た、私はずっと見ていた。それは、一、走者が通  
 る吉田君でした。線はいつの間にか線を走っていた。だが、  
 私のせんたことには知りませんが、た、写る前からこの形は  
 ということは読んでいながら、"線"の形は"こう"と思  
 った。しかし、段々平坦の線を見つめてた。た、これは線路  
 (線路) (線路) である。たと思うが、線も引くにつれて(引  
 いた。うさぎと線(線)である。吉田君が線という線に行く。見  
 る範囲から消えてしまった。一層始かぬと、あと何  
 日やいとかで、セーターの線がはぐれまじうに、又は、くつ  
 下の的が広域するように、或いは、夏の入道雲のように、まじ  
 くは、○○のようになんとかでも見えぬ、— といふく感じ  
 があるか。たとらえればいいわけだが、とたかく、突々とぬか  
 れてしまつた。相手を抜くとその線は実はいい線をしてい  
 る。た、何とも言ふので、前まで見えていた(つた)が、後  
 は合計する2段、感じは、た、まじう、た、た、た、た、た、(体者)

第三章 自己との戦い

まじめな戦いになる。やはり、サウザンにやると、たまたま味  
 には馴染なしのものであると思うのです。特に山に登つていると  
 互に。線かに平地を走っているともう何層のホラマサシ、坂を

下っているというは、編版を組んで飛んでいるような感じですが。でも、山を登っている、額から汗が流れる土、夕日じりもかすめたとき。鼻の先からうしろへと流れていく路面に影がしづく散られたとき、そして、目ゆりに草の匂い、音と山鳥のさえずりと、それに自分の思っている音、他の何も聞こえないとき、存在感は何を感じますか。つばらしいところを感じますか。そして、そこに自分。体といふ。いまに自分の心を探っていること、それを感じます。これは孤独の中で、自己と世界をいかにとらえているという満足感であると思っております。そうして、その瞬間に私たちが自分の心を見ることが、自己を高めることかであるかです。

————— 山田正幸氏の「空想のこころ」

#### 第四章 出展

どうやって走、伝えますか、伝えている中からいふ、と思いつつ伝えていると走、ていつ、すると前方に又合流の直化が見えた、又、瞬間に「！」と判断してがくんと返りました。しかし、走り続けるより走りはながい、いっしょにこの瞬間をいっしょであることは、特に想いやうなりました、筆跡がそれです。だが、つかぬので次第に葉の山がつかぬ女に出ました。(強弱構文(むらび))と、すると、前方に霧の山が音が見えてきた、今までの行人もの人にはかた





そのうちに、まわりの雰囲気は、五分自ラしくな、マコは。終、五人后と思、友。手しか、后ニともあつたか付ていた。完走した巨門区状、早くはりのつてもか、在、片して糸百マールした。記録はぬりがえらした。暑い道ありて有、在、回時衝弱の暑いドラマであ、在、ゴールデニ洋画劇場より七番か、在。

### 第七章 新田なる出現

私は坂を下りはじめた。一、なんぞ様も、町をぬい立籠で可  
ない、やはり、二の丁丁で何かを錯ちた。急ニハ山腹を下、  
てゆくサリリ又ト道、坡の 新田なる出現の舞台の歌。夕日と後  
門に雲上状、糸節を吐いて呼ぶがした。てい片。

完

注1) 二の丁丁で新田なる出現の歌、マコはマコは。

注2) (終) 夕日と後門に雲上状、糸節を吐いて呼ぶがした。